

加藤 克之 議員 誠進会



問 自主防災活動の取り組み効果は

答 学校や地域と連携が進んできた

問 自主防災活動の中で、新たな取り組みと購入品は、

答 「危機管理課長」津波ハザードマップ」などを

テーマに出前講座の開催や「避難行動要支援者名簿」の活用方法などを話し合う

自主防災会もある。購入品はAED、レスキューセットなど。

問 実情・内容に対して、市の指導や助言をしているか。

答 基本的には自主性を重んじているが、相談があった場合は地域の実情に沿った助言をしている。

問 自主防災会をはじめ、地域に対して取り組んできた内容は、

答 「避難行動要支援者名簿」をテーマに防災ワークショップを開催。

問 これまでの取り組みで特に良かったことは、

答 学校や自主防災会など地域住民と連携し、ハザードマップなどを作成できたこと。

問	防災公園の整備は
答	県に整備を要望していく



▲ソーラー照明灯など防災設備が整備されている「ひので公園」

問 近年整備した公園の内容は、

答 平成26年、かおるヶ丘に「健康ふれあい公園」を整備。

問 市内の公園に防災機能を整備しては、

答 既設の公園に防災設備の設置は考えていない。

問 なお、ひので公園には整備されている。

答 人口密度が高い地域に整備されている。

問 人口密度が高い地域に整備されている。

答 県に対し、防災活動拠点の整備を行ってもらえるよう要望していく。



▲AEDの取り扱いを説明する消防団員

問 市内の公園の数と点検回数は、

答 都市計画課長 市内16カ所全てを毎年4回実施。新しく遊具設置と修理をした公園名と実情・内容は、

問 中六公園のすべり台1基を更新。他8公園のトイ

しゃ水飲みなどを修繕。